



たま病院ニュースレター

TAMA Hospital News Letter 2016



親知らずの話

歯科口腔外科 部長 石井 宏昭



【親知らずとは】親知らず（親不知）とは大臼歯の一番後ろに位置する歯のことです。専門的には智歯あるいは前歯から数えて第二大臼歯の後ろの8番目にあるので8番ともいわれています。永久歯は通常15歳前後で生えそろういますが、親知らずは10代後半から20代前半に生えてきます。乳歯の生えはじめと異なり、親に知られることなく生えてくるのがその名の由来と言われています。また、親知らずを英語ではwisdom toothと言いますがこれは、物事の分別がつく年頃に生えてくることに由来しています。

【親不知の過去と未来】すべての人に上下左右に4本生えるわけではなく、約4人に1人の割合で全く生えてこない人もいます。

歯はもともと顎の骨にしっかりと植えつけた角のようなものでした。親知らずもまっすぐ生えていました。人類の祖先は長いあいだ狩猟と採集生活により堅い食べ物をかみ砕いて食べていたので顎が大きく発達し、親知らずが正常に生えるスペースもあったのです。やがて、1万年前から定住生活をして農耕文明を始めると火を通した食品を好むようになり柔らかな食品を摂取するようになったので、歯は出番を失うようになりました。自然の法則による退化現象の始まりです。このようにして、猿から人類に進化し、顎は小さくなりやがて歯の数は減っていくのです。進化によって顎の大きさが縮小した結果、親知らずがうまく生えることができなくなり顎骨内に埋伏したり、横向きに生えてくるようになったと考えられています。北京原人やネアンデルタール人の時代までは、親知らずは4本正常な状態でしたが、クロマニヨン人になると親不知の埋伏は発現していて、弥生時代にはすでに親知らずの埋伏や欠損は珍しくなかったようです。また、生まれながらに欠損する歯は決まっています。遠い将来、人類に残る歯は犬歯のみであると予想されています。

【親不知の病気】親知らずが正常に生えていて、上下の親知らずがしっかりと咬み合わさっていれば抜歯をする必要はありませんが、横向きに生えたり、歯肉に部分的に埋伏したままになることにより不潔になりやすく、歯肉の炎症を起こしやすい状態になってしまいます。これを智歯周囲炎と呼び、20歳前後の人に発生する頻度の高い疾患です。智歯周囲炎が周囲の歯肉や顎骨に波及すると顔が腫れたり、口が開きにくくなることがあります。このような炎症を繰り返している場合には抜歯の適応となります。

【親知らずの抜歯】正常に生えている場合には普通の歯を抜くのと同様に比較的簡単に抜歯ができます。しかし、横向きに生えていたり、親知らずの大部分が骨の中に埋まっていると、歯肉を切開して周りの骨を削ったり歯を分割して抜歯をするため、口腔外科に習熟した高度な技術が必要になります。

部門紹介

歯科口腔外科



歯科口腔外科の名称は自由標榜なので経験の有無に拘わらず、どの歯科医院でも標榜をすることができますが、当院は、日本口腔外科学会の専門医・指導医が在籍する、日本口腔外科学会研修指定病院です。従って齲蝕や義歯などの一般歯科治療は行っていません。

歯肉や舌などに生じる口腔がんや、顎変形症（受け口や顔面の非対称）、顎関節症、顎骨骨折などの外傷、口腔粘膜疾患などに対応しています。口腔内でお困りのことがあれば何なりとお問い合わせください。

ボランティア会「ランパス」によるボランティア活動

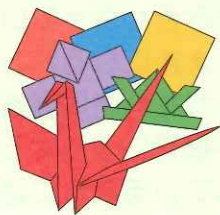


多摩病院では、ボランティア会「ランパス」によるボランティア活動が行われています。ランパスによる当院での活動は平成18年（2006年）の4月から開始され、今年で10年が経ちます。これまでにたくさんの活動が行われました。

昨年度（2015年）の活動内容の紹介

ボランティア・ランパス会員数19名 実働人数（のべ）800人 実働時間1,712時間

活動内容	回数	参加者総数
ロビーコンサート	12回/年	971名
ミニコンサート	3回/年（3月・7月・11月）	93名
うたごえ広場	2回/年（5月・9月）	53名
移動図書	活動日数22日	貸出者数 279名
おりがみ教室	23回/年	314名
病棟サポート	2回/月	
院内の額絵交換	5回/年	



外来と病棟のおりがみ教室は手の込んだ作品ばかりで「素敵だ」と大人気となっています。

病棟の患者さまの見守りやベッドサイドでお話しをするなど補助活動も多岐にわたっています。コンサートはいつも賑わい、たくさんの人が参加します。ランパスでは、今後も更に活動を充実させていく予定です。これからも宜しくお願いします。